



10年間の総括と新たな決意

名古屋市情報教育研究会会長
溝口 清巳 (山根小)

23年4月から小学校では学習指導要領が全面実施されています。24年度には中学校、25年度には高校というように順次実施されていきます。これに伴い、教科書も全面的に改訂されました。数年前からキャンペーンが続いてきた地上デジタルテレビ放送がアナログテレビ放送の終了に伴って7月末からは主役の座につきます。今年は大きな節目の年になっています。

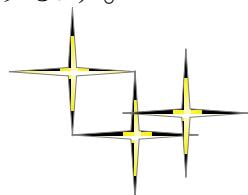
名古屋の学校でも、ここ数年のうちに教育の情報化の環境整備が着実に進んできました。長年の課題になっていた教員一人一台のコンピュータ配備、校内LAN設置完了。市内全小中学校に電子黒板、プロジェクタ、学習用ノートパソコンのセットが配備されました。今後はこれらの教育環境を生かして、教師のICT活用指導力の向上が求められています。また、子どもたちがICT機器を活用して発表したり、意見交換したりしながら、情報活用能力を高める活動に取り組む姿も徐々に増えてきました。

この変革の年、名古屋市情報教育研究会も10年ぶりに組織改編を行いました。研究部の情報活用能力研究部とICT活用研究部、事業部の校務の情報化推進部の3つの研究活動が研究会の3本柱となります。3つの部会は、それぞれ子どもたちの情報活用能力の育成、指導のねらいを達成するためのICT機器の活用方法や場面の追究、校務の情報化推進への情報提供を目標にしています。これらの研究活動を深め、目標を追求していく中で、今から始まる10年間、名古屋の情報教育のレベルアップを目指したいと考えています。

新たな10年のスタートを切るのにあたって、今一度はっきりさせておかなければならないことがあります。それは、ICT機器の進化・発展に合わせるように、機器ありき、操作ありきの情報活用能力育成の実践が目につくようになってきたことです。また、子どもたちの生活安全・安心のための情報モラル確立のために、時代の強い要請を受けた実践も多く見られました。熱心に取り組まれた多くの実践からは、残念ながら子どもたちのいきいきとした表情や、表現する楽しさや創り出す喜びがあまり伝わってきませんでした。また、実践記録は教師の思いや発言が目立ち、子どもたちの行動やつぶやき、意見交流を通して子ども同士が教えあい学びあう協働的な学びの形がなかなか見られませんでした。

子どもたちのほじける笑顔や、意欲に満ちた瞳があふれる「よい授業」を原点とする研究活動を積み上げていかなければならないと覚悟を固めております。

ともによい授業を目指して、研さんを深めていきましょう！



楽しい授業、分かる授業を創りたい

「子どもたちの気付きをはっきりさせたり、言語活動を充実させたりするには、どうしたらいいのだろう。」

充実した授業づくりへの悩みの声をよく耳にします。

そのような声に、電子黒板やインターネットなどのICTの活用はとても有効です。

右の写真は、小学校1年生の子どもが、観察で気付いたことを電子黒板を使って写真に書き込み、拡大しながら説明しようとする場面です。

このように、本研究会では、情報の収集や整理、発信の場面における情報活用能力の育成の研究や、授業の中でのICT活用の研究を進めています。

本年度は、「情報活用能力研究部」と「ICT活用研究部」で、子どもたちに楽しい授業、分かる授業を創る実践研究を進めていきます。



—情報活用能力研究部—

共に学ぶ活動を通じた課題解決

- 学習の課題解決における、情報の収集、整理・加工、発信等の各場面で情報活用能力を育成する。
- 友達と共に、課題解決に必要な情報や、解決した結果を共有する中で、共に学ぶ喜びを味わう。

本研究部では、共に学ぶ活動を通し、情報活用能力を育成することをめざし研究を進めます。

—ICT活用研究部—

教科指導での効果的なICT活用

- 校内ネットワーク環境やICT機器環境の整備の充実
- 新学習指導要領実施による、教科指導での分かる授業の実現

本研究部では、ICT機器を様々な教科指導に効果的に活用して、楽しく分かる授業づくりの研究を進めます。



各研究部の活動の様子や情報教育に関する新しい情報は、名古屋市情報教育研究会のホームページでも発信しています。

一度、ご覧いただければ幸いです。

アドレスは、<http://www.meijoken.com/>

検索サイトで、次のようなキーワードで検索してもご覧いただけます。

名情研

検索